



園だより



平成31年1月28日
佛教大学附属幼稚園



「巧妙な手段(方便)」

園長 田中典彦

一年のうちで最も寒い時期です。それでも子どもは風の子です。園庭で元気に遊びまわっている姿に頬が緩みます。幼稚園では毎月のお誕生会が開かれます。その月生まれの園児さんがみんなからお祝いをしてもらうのです。みんなの前に立って一人ひとり名前を言って、先生から質問を受けます。「大きくなったら何になりたいですか?」「あなたの好きな食べ物は何ですか?」などなどです。「看護師さんになって、沢山の人の病気を治してあげたいです」。「新幹線の運転手さんになりたいです」と自分の今の夢を話してくれます。中にはアニメの主人公のようなものがある、ほほえましいかぎりです。

成長と共に現実の社会を知ってゆくことによって夢も変わってゆくのです。仏の教えによると、すべては移り変わりの中にあるのですから、それでいいわけです。移り変わってゆくからこそ、人は何かに成ってゆけるのです。成ってゆくのはその人自身です。私たちはそれを支援する立場にあるわけです。

おかしインドのあるところに一人の豪商が住んでいました。彼には三人の男の子がいました。ある日のこと、となりの町まで出かける用事があって、子どもたちだけを家に残して行かざるをえなくなりました。そこで父親は子どもたちにこう言って聞かせたのです。「いいか、この地には悪い人も多から、私の留守の間は何事があっても、この家の中にいて、絶対に外へ出てはいけません」と。そして彼は出掛けて行ったのです。やがて仕事を済ませて帰路についたのですが、峠の所までやってくると、自宅が火事になっているのが見えたのです。「大変だ!子どもたちの命をすくわなければ!」、急いで自宅に帰ってみると、子どもたちは火事に気付いていなかったのです。彼は大声で「火事だ!火事だ!みんな家から出ておいで!」と叫ぶのですが、子どもたちは父親のいいつけを守って外に出ようとはしなかったのです。

そこで豪商は一計を案じたのです。「みんな出ておいで、父さんがお前達の好きな車を三台お土産に買って来たぞ!一つは馬の牽く車、一つは牛の牽く車、一つはロバの牽く車。早く出てきたものから自分の好きなものを選んでいいよ」と言ったのです。するとそれを聞いた子どもたちが、われ先にと家から飛び出して来たのです。父の元へ駆けつけた子どもたちが口々に言いました。「父さん!車はどこにあるの?どこにもないや、嘘をついたのか」と。

やや落ち着いてから商人は「今はお前達の命を救うことが一番大事な事だったのだ。だから方便(巧妙な手段)を用いたのだよ。許してくれ」と言ったという。これは「三車火宅」という仏の語った有名なたとえ話の一つです。今最も重要なことを達成するために用いられた嘘は、巧妙な手段として認められるということから「嘘も方便」と言われるようになったのです。

仏はすべての人を悟りへ導こうとされたのです。自らの悟りを言葉で教えることは不可能であるとしても、それを言葉で教えとして説いたのは、すべての人を悟りに近づけるための巧妙な手段だったというわけです。しかし、悟るのはどこまでも本人なのです。

わたしたちのなし得る子育てもこれに当たるのかもしれませんが。なぜなら自分の人生を築いてゆくのは子どもさん自身なのです。しっかりと子どもさんを見つめながら子育てしてまいりたいと思います。